ろくおん
通信

２０１９年２月１日発行

発　行　日本ライトハウス情報文化センター
録音製作係
発行責任者　竹下　亘
電　話　06-6441-1017
ＦＡＸ　06-6441-1027
http://www.iccb.jp/

No.232

今号の内容

◎聴いてわかる録音図書をつくるために（第４５回）……１ページ
誤植についての考え方
◎もっと知ろう！「ウェブスタジオ・なにわ」（第２３回）……２ページ
「下調べ票」についてのＱ＆Ａ
◎わかる 使える 広がる！ デイジー図書徹底解説（第１８回）……６ページ
デイジー編集作業を振り返る

聴いてわかる録音図書をつくるために（第45回）

誤植についての考え方

久　保　洋　子

音訳において、原本通りに読むことは大切な基本です。といっても、原本にはそのままでは意味不明の誤植と思われる箇所が出てきます。

「誤植も含めて原本通り」と言われますが、本当にそれでいいのでしょうか。もちろん、誤植を音訳者の判断で直して読むのは危険です。とんでもない誤りを伝えることになりかねません。原本通りは大原則です。

一方で、音訳は「私たちが目で見て知り、理解するのと同じ内容を音で伝える」のが基本です。

漢字の誤植で、例えば「則原」と書かれているのをそのまま「ソクゲン」と読んだとします。漢字を見ていて、前後の文を読めば「ゲンソク」の誤りとすぐわかりますが、「ソクゲン」という音だけではなかなか状況がわかりません。

録音図書では、わからない言葉が出てくると、そこで思考が止まって、先へ進めなくなります。そういう図書の内容を、私たちが墨字の本を読むのと同じように理解でき、楽しく読めるでしょうか？

ではどうするのか。これが大問題です。

１．「～でたし。」「～しすま。」のような誤植は、「～でした。」「～します。」と正して読んでもいいと思います。
２．漢字の誤植は注意が必要です。辞書に載っていなくても誤りというわけではなく、著者の造語ということもあり得るからです。原本通り読むなら、字の説明を補足した方がいいこともあります。
３.「則原」を「ゲンソク」と読みかえるのは駄目でしょうか？　特に専門的な内容でなく、著者が言葉を造っている可能性が低いもの（例えばお料理の本など）は、前後の文章を読んで確かめたうえで「ゲンソク」と読むのも、ありではないでしょうか。
４．これは誤植だと決める時には、慎重にしてください。自分一人ではなく、職員なり誰かに相談するのがいいと思います。字の説明など、処理についても同様です。

もっと知ろう！「ウェブスタジオ・なにわ」（第２３回）

～ボランティアの皆さんから寄せられる質問などを、毎回少しずつ紹介しています～

「ウェブスタジオ・なにわ」に関する疑問を少しずつ解消するこのコーナーでは、音訳者の手順を順次紹介してきました。今回は、多く寄せられる「下調べ票」についてのＱ＆Ａです。

◆「下調べ票」について

「下調べ票」は、紙の調査票のウェブ版です。

校正者、デイジー編集者がいつでも簡単に、調査結果を確認することができます。

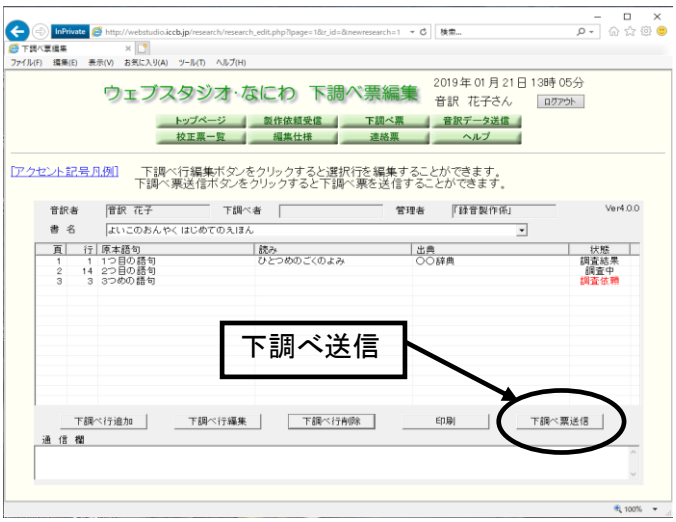
- 作成/送信の手順は、No.２２２（２０１７年６月）参照
- 検索しやすくする方法については、No.２２３（２０１７年８月）参照
  No.２２９（２０１８年８月）にも補足説明があります
- 校正者/編集者の手順については、No.２２１（２０１７年４月）参照

＜音訳者からの質問＞

Ｑ１．入力した項目が消えてしまいました。どうしてですか？

Ａ１．１行でも新しい語句を記入したら、 下調べ送信 ボタンを押してデータを送信してください（次ページの図参照）。

送信することで「ウェブスタジオ・なにわ」のサーバーに保存され、校正者・編集



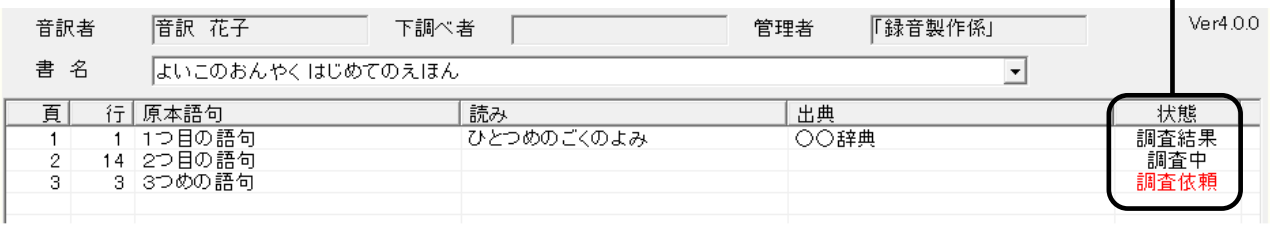
者も利用可能となるしくみになっています。

なお、調査した語句が多くなった場合、パソコン内に Excel データとして保存すると、検索しやすくなります。やり方は No. ２２３、No. ２２９で紹介しています。

Ｑ２．「下調べ票編集」画面の「状態」欄はどういうものですか？

Ａ２．音訳者の調査の状態を表しています。

［調査結果］：音訳者の調査が完了している状態
［ 調査中 ］：音訳者が調査中の状態
［調査依頼］（赤字）：調べがつかず、校正者/編集者に調査して欲しい状態



Ｑ３．「出典」欄はどのように記入すればいいですか？

Ａ３．紙の調査票と同じようにご記入ください。

例）「大辞林」「日国」「漢和辞典」「姓名よみかた辞典」など

【注意】インターネット調査の場合は、「Google」や「ネット」ではなく、以下の「　　」内のように、具体的に記入する（校正者・編集者が後から同じページを確認できるように）。

①　アドレス：「http://www.～～～」

②　サイト名：「大阪市ＨＰ」「日本郵便」「NDL-OPAC」「CiNii」など

③　音訳の部屋：「音訳の部屋/医学用語」「音訳の部屋/日本の読み方」など

④　インターネット百科事典：「コトバンク」「ウェブリオ辞書」「ウィキペディア」など　（※不特定多数の人の書き込みによって作られているサイトを出典とする場合は、複数のサイトで確認するなど慎重に判断してください。）

⑤　調査がつかず推測読みする場合（人名など）：「推測読み」

＜校正者・編集者からの質問＞

Ｑ１．確認方法を教えてください。

Ａ１．「ウェブスタジオ・なにわ」トップページ、「〇〇〇の下調べ票が届いています」の新着メッセージ、または上のメニューキー 下調べ票 をクリックすると「下調べ票一覧」が表示されます。

①　“赤色”で［調査依頼］とあれば、調査し、調査結果を記入します。校正者が入力した文字は“緑色”、編集者のものは“紫色”に変わります。

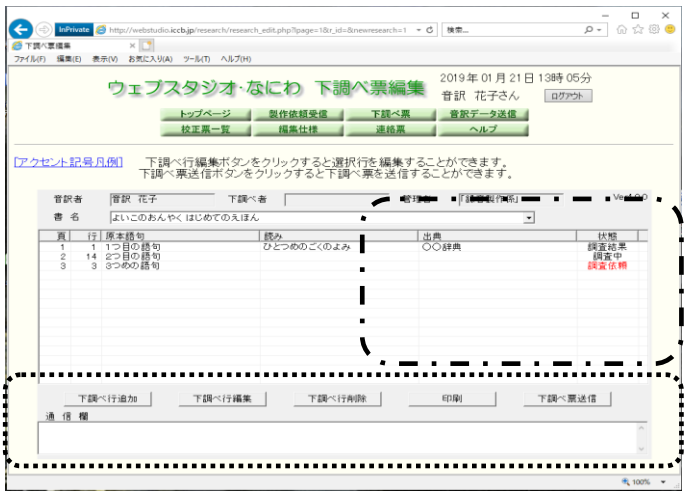
②　［調査依頼］→［調査結果］に変更します。

③　入力したら必ず「送信」します。

…　…　…　…

★　下調べ票が途中で切れてしまって、読めない場合の対処法

インターネットエクスプローラーの画面の「拡大レベル」が「１００％」（右の図）より小さい時に起こるようです（次ページ・拡大レベル５０％の時の画像を参照）。



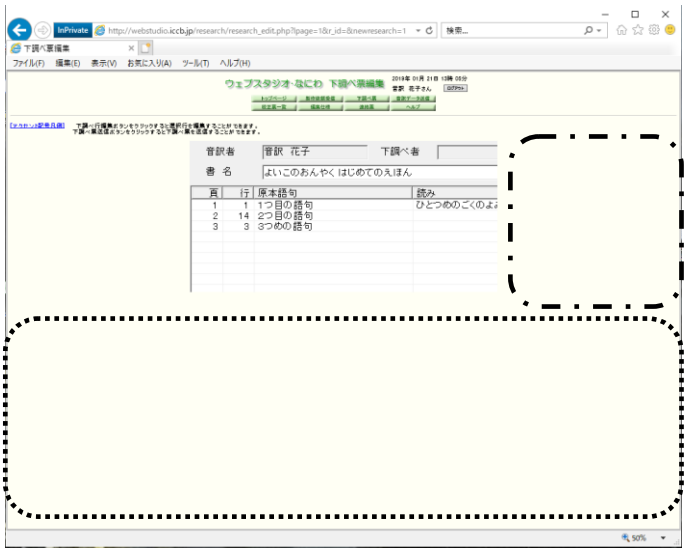
拡大率１００％（標準）

具体的には、画面右側の「出典」や「状態」、画面下側の「下調べ行追加」などの各ボタンと「通信欄」が隠れて見えなくなってしまいます。

普通のウェブページなら、「拡大レベル」を変更することで、画面の文字を見やすくするこ

とができるのですが、下調べ票の場合はページの仕様上、逆に読みづらくなってしまいます。

もしこうなってしまった場合には、CTRL ＋ ＋ キーを何度か押し、下調べ票全体が見えるようになるまで拡大してください（反対に CTRL ＋ － キーを押すと、表示が縮小されます）。



拡大率５０％

CTRL キーを押しながらマウスのスクロールホイール（左右のボタンの間についているタイヤのようなもの。画面の上下移動などに使う）を前後に動かしても、同じように拡大レベルが変化します。

★　記号の入力にご注意ください（アポストロフィ、シングルクォーテーションマーク）

下調べ票に半角の「’」の記号を入力すると、データが送信できない（保存されない）ことがわかりました。アポストロフィのついた単語や、引用符（シングルクォーテーションマーク）として使う場合は、全角の「’」をお使いください。

★　人名の推測読みには『日本姓名よみふり辞典』をお使いください

有名人ではない一般の人の名前は、最近ではインターネットで調べがつくことも増えてきました。それでも限界はあり、推測読みにすることもあります。

推測読みをする場合、まずは『日本姓名よみふり辞典』（日外アソシエーツ）で「一番使われている頻度の高い読み」を引いてみてください。『姓の部』と『名の部』の２冊があり、どちらも「表記編」（漢字表記から読みを調べる）と「表音編」（読みから漢字表記を調べる）に分かれていますが、音訳の下調べには「表記編」が役に立ちます。

たとえば「重一」という名前の読みがわからない時は、『名の部』で以下のように探します。

①　１文字目を音読みで探す（五十音順・清音→濁音→半濁音の順に配列）

「重」は「じゅう」のところ（清音「しゅう」の次）に掲載。

② 漢字を画数順で探す

「じゅう」の９画に「重」がある。更にその中で、２文字目の「一」１画のところに「重一」が載っている。

③ 先頭（読みがなの左側）に＊がついているものが、最も多い読み

「重一」には「しげいち＊」「＊しげかず」「じゅういち」と３種類の読みが載っているが、「しげかず」の先頭に＊印がついているので、これを採用する。

『よみふり辞典』を使って読みを決めた場合は、下調べ票の「出典」欄に「日本姓名よみふり辞典」と記入をお願いいたします。『よみふり辞典』を引いても載っていないような名前については、音訳者が適宜ふさわしいと思われる読みを決めてください（下調べ票には「推測読み」と記入）。

わかる 使える 広がる！
デイジー図書徹底解説（第１８回）

デイジー図書のしくみを解説するこのコーナーでは、デイジー編集ソフトウェア「PRS Pro」を使った実際の編集作業を紹介しています。前回で一通りの編集作業が終わりましたので、今回は、ここまでの作業を振り返ります。

なお、「ろくおん通信」のバックナンバーは、当センターホームページの“定期刊行物”よりダウンロードできます。

１、デイジー図書製作前の検討作業

……No.２２３（２０１７年　８月）参照

① どのように利用される図書なのか？

② 墨字原本の成り立ちはどのようになっているのか？

③ 目次と本文の見出しの照合

④ 階層（レベル）はどうするか？

⑤ グループチェックはどうするか？

⑥ デイジー図書凡例を考える

⑦ 索引がある場合は、本文のページと照合する

２、編集準備　……No.２２５（２０１７年１２月）参照

①　パソコン内に編集作業用のフォルダ作成

②　「PRS Pro」を起動し、新しい図書を作成する設定

３、音声データの取り込み　……No.２２６（２０１８年　２月）参照

音声データを「PRS Pro」上で編集できるように取りこむ作業です。方法は３つあります（音声インポート、DAISY インポート、PRS を使った録音）。

No.２２６では、「音声インポート」について紹介しています。

４、実際のデイジー編集作業

①　セクション分けと階層化……No.２２７（２０１８年４月）、No.２２８（同６月）

②　見出しの入力……No.２２８（２０１８年　６月）

③　フレーズの結合、削除、分割、コピー、貼り付け　など
……No.２２９（２０１８年　８月）

④　ページチェック（ページ付け）……No.２３０（２０１８年１０月）

⑤　グループチェック（グループの印を付ける）……No.２３１（２０１８年１２月）

⑥　間（ま）や雑音、音量の調整不要なフレーズの削除などを適宜行う

⑦　同時に校正作業も行う

⑧　修正録音や追加録音の音源を取りこみ再編集（次回に紹介します）

５、確認作業とＣＤ作成　ここからの作業は次回以降に紹介します。

編集者ブラッシュアップコーナー

今まで紹介した内容をまとめてみます

- ビルドブックについて……No.２２１（２０１７年　４月）
- 見出しに番号を付加する場合の注意点……No.２２２（２０１７年　６月）
- 目次の見出しと本文の見出しの照合について…No.２２３（２０１７年　８月）
- 連続再生（ Ｆ５ キー）とアンドゥ機能……No.２２４（２０１７年１０月）
- フォルダの管理……No.２２５（２０１７年１２月）
- 音声インポートについて……No.２２６（２０１８年　２月）

【次頁に続く】

- 書誌情報の入力……No. ２２７（２０１８年　４月）
- 見出し入力チェックリスト……No. ２２８（２０１８年　６月）
- ページチェックについて……No. ２３０（２０１８年１０月）
- グループチェックについて……No. ２３１（２０１８年１２月）

館からのお知らせ

★　２０１９年度　音訳ボランティア養成講習会（１）（２）（３）受講者募集

当館での音訳活動を希望される方が対象です。入門編の（１）とその次の（２）は４月中頃から、（３）は５月から開講予定です。

詳細は録音製作係（電話：06-6441-1017、メール：rec@iccb.jp）までお問い合わせください。募集要項は、完成し次第当館ホームページにも掲載予定です。

★　３月８日（金）・９日（土）　「点訳・音訳体験オープンデー」開催

点訳・音訳への関心を掘り起こし、新たに講習会を受講・修了される方を増やすため、当館のボランティア活動やサービスを気軽に体験していただくイベントを今年も開催いたします。

ボランティア活動に限らず、当館の活動や視覚障害者の方に関心のある方ならどなたでも歓迎します。

時間は両日とも１１時～、１２時半～、１４時～（参加無料、予約不要）。１回９０分～１２０分。お問い合わせ先は総務係（電話：06-6441-0015）まで。ぜひお知り合いやご友人、ご家族などにご案内ください。

★　休室のお知らせ

３月　６日（水）　※ボランティア交流会のため

今年も玉水記念館にて開催いたします。
詳細は「One Book One Life」１月号に掲載。
ご参加のお申し込みは２月末まで受付。
皆様のご来場をお待ちしております。

３月２１日（木）　※春分の日